小　学　校

平成２２年度

教育研究員研究報告書

音　　楽

東京都教育委員会

目　次

◇　研究の概要…… 1

Ⅰ　研究の背景とねらい…… 2

Ⅱ　研究の方法…… 2

1　基礎研究

2　実践研究

Ⅲ　研究の内容…… 3

1　研究の仮説

2　思いや意図をもった音楽表現のための３段階の学習過程

3　具体的な手だての二つの視点

4　思いや意図をもった表現をするための具体的な手だて

【実践事例Ⅰ】Ａ表現 (1) 歌唱　第４学年…… 6

題材名「音の重なりを感じ取りながら、声を合わせて歌おう」

【実践事例Ⅱ】Ａ表現 (2) 器楽　第６学年…… 8

題材名「各声部の役割を生かして演奏しよう」

【実践事例Ⅲ】Ａ表現 (3) 音楽づくり…… 9

題材名「気に入った音を見つけよう」

【実践事例Ⅳ】Ｂ鑑賞 (1) 鑑賞　第６学年…… 10

題材名「曲想を感じ取ろう」

【各学年の指導事項の連続性や関連性を考慮した年間指導計画】 … 14

Ⅳ　研究のまとめと今後の課題 …… 16

1　研究のまとめ

2　今後の課題

◇　研究の概要

共通研究テーマ　「新学習指導要領に対応した授業のあり方について」

音楽科の改善の基本方針

・思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること。
・〔共通事項〕を支えとして、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を育成すること。

特定の課題に対する調査（音楽）結果

・表現と鑑賞の学習の充実のために、言語活動を適切に取り入れる指導を工夫すること。

東京都教育ビジョン＜第２次＞

３　子供・若者の未来を応援する
《取組の方向》
（９）児童・生徒の「確かな学力の向上」
《重点施策》
19　「確かな学力」を育成するための授業改善の一層の推進
◇知識・技能を活用する力、思考力や判断力、表現力、学習に対する意欲などを育成し伸ばしていく。

研究のねらい

〔共通事項〕の学習を支えとして、児童が思いや意図をもって表現したり、音楽全体を味わって聴いたりする力を育成するために必要な指導方法や、言語活動の適切な取り入れ方を、検証授業による実践研究をとおして明らかにする。

研究主題　「感じ取ったことを基に、思いや意図をもった表現ができる児童の育成」

研究仮説

音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、要素の働きを感じ取ったり、要素の働かせ方を試行錯誤したりするための指導の工夫をすれば、思いや意図をもった表現ができるだろう。

研究の内容

○思いや意図をもった音楽表現のための３段階の学習過程

① 聴き取る → ② 感じ取る → ③ 思考・判断する

① 聴き取る：音楽を形づくっている要素を判別したり意識したりする。
② 感じ取る：要素の働きについて感じ取り、楽曲の特質として捉える。
③ 思考・判断する：要素の働かせ方を試行錯誤し、思いや意図をもつ。

○思いや意図をもった表現をするための具体的な手だて

・音楽を形づくっている要素の提示の工夫(P.4)

取り出す	楽曲の一部分を取り出して聴いたり、分割して聴いたりすることで、注目させたい部分や、考えさせたい要素への意識付けができる。
比較する	二つの要素の働きの違いや段階的な変化を比較して聴いたり、全ての素材を提示して聴く時間を設定したりすることで、違いによるよさや感じ方の違いを意識できる。
例示する	工夫する方法を例示したり、考え方を例示したりすることで、思考の幅が広がり、見通しをもって学習に取り組むことができる。
視覚化する	楽譜そのものを提示したり、楽譜の書き込みを提示したりすることで、要素の働きを具体物として視覚的に提示することができる。

・言語活動の工夫(P.5)

発言する	全体の場面で発言したり、教師に個別に話したりすることで、他の考え方を知ったり、現在の自分の考えを確認したりできる。
記述する	ワークシートや楽譜に記述することで、記録を基に予想したり、思考の変容を感じ取らせたりすることができる。
意見交換する	友達同士で話し合ったり、グループで意見交換したりすることで、互いの考えや思いの違いに気付いたり、楽曲への思いや意図をより明確にもって次の活動につなげることができる。

○各学年の指導事項の連続性や関連性を考慮した年間指導計画の作成(P.14-15)

思いや意図をもった音楽表現を、次の題材で生かしたり、学習した〔共通事項〕を生かしながら、次の学習に取り組めるようにしたりする。

検証授業

・Ａ表現(1)歌唱　　第４学年〔共通事項〕音の重なり（P.6-7）
・Ａ表現(2)器楽　　第６学年〔共通事項〕旋律、音の重なり（P.8-9）
・Ａ表現(3)音楽づくり　　第２学年〔共通事項〕音色（P.10-11）
・Ｂ鑑賞(1)鑑賞　　第６学年〔共通事項〕速度、音の重なり、反復（P.12-13）

研究の成果と課題

研究主題　「感じ取ったことを基に、思いや意図をもった表現ができる児童の育成」

Ⅰ　研究の背景とねらい

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成２０年１月、中央教育審議会）では、感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを働かせる力を育てたり、音や音楽を知覚し、感性を働かせて感じ取ることを重視しながら音楽を表現する技能や鑑賞する能力を育てたりすることに、課題があることが示された。このことから、特に、新学習指導要領に新設された〔共通事項〕の学習を支えとして、児童が思いや意図をもって表現したり、音楽全体を味わって聴いたりする力を育成するための指導の工夫が必要である。

さらに、「特定の課題に関する調査（音楽）調査結果報告書」（平成２２年７月、文部科学省）では、音楽を特徴付けている要素や楽曲の構成を聴き取り、それらと関わらせて、感じ取った曲想を言葉で述べることに課題があることが示された。また、友達の感じ方のよさや違いを認め合ったり、自分の感じ方を広げたり深めたりして、それを言葉で表すことができるような指導の充実についても示された。このことから、曲想とその変化、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って、音楽に関わる言葉を用いながら、想像したことや感じ取ったことを発言したり記述したりする指導の工夫が必要である。

そこで、研究主題を、「感じ取ったことを基に、思いや意図をもった表現ができる児童の育成」と設定し、〔共通事項〕の学習を支えとして、児童が思いや意図をもって表現したり、音楽全体を味わって聴いたりする力を育成するために必要な指導方法や、言語活動の適切な取り入れ方について、検証授業による実践研究を通して明らかにすることとした。

Ⅱ　研究の方法

１　基礎研究

調査報告書や資料等を基に、以下の内容についての基本的な考え方を整理した。

・音楽科における思考力・判断力・表現力について

・感性を高め思考・判断・表現する一連の学習過程の捉え方について

・音楽科における言語活動の意義と学習効果について

２　実践研究

思いや意図をもった音楽表現のための学習過程を３段階に捉え、研究主題に迫るための具体的な手だてを二つの視点で設定し、さらに工夫の観点を明確にしながら、各段階における具体的な手だての有用性について検証した。

(1)　思いや意図をもった音楽表現のための３段階の学習過程

①　聴き取る：音楽を形づくっている要素を判別したり意識したりする段階

②　感じ取る:音楽を形づくっている要素の働きについて感じ取り楽曲の特質としてとらえる段階

③　思考・判断する：音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤し思いや意図をもつ段階

(2)　具体的な手だての二つの視点と工夫の観点

ア　音楽を形づくっている要素の提示の工夫

工夫の観点：「取り出す」「比較する」「例示する」「視覚化する」

イ　言語活動の工夫

工夫の観点：「発言する」「記述する」「意見交換する」

(3)　年間指導計画の作成

各学年の指導事項の連続性や関連性を考慮した年間指導計画を作成した。

Ⅲ　研究の内容

１　研究の仮説

〔共通事項〕の学習を支えとして、思いや意図をもって表現したり、音楽全体を味わって聴いたりする力を育成するためには、児童が、〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら、明確な願いや思い、意図を実現できるようになることが重要である。

そこで、本研究では、児童が、音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら、音楽を聴いて感じ取ったことを基に、どのように音楽表現したいかについて自ら考え、試行錯誤を繰り返し、表現に対する明確な考えや意図が音楽表現として表出されていることを「思いや意図をもった表現」と捉えた。

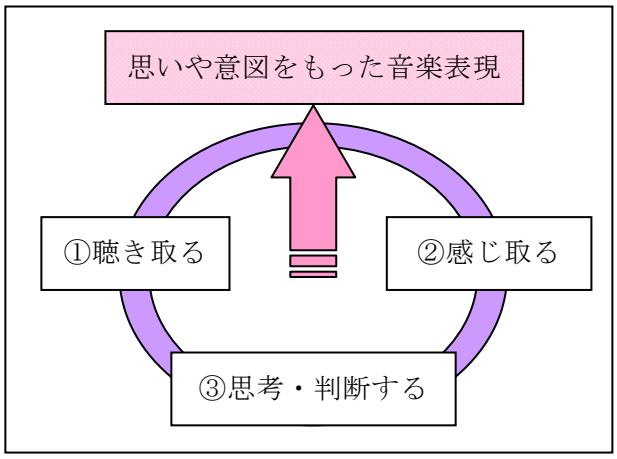
さらに、音楽を形づくっている要素が、思考・判断・表現のよりどころとなるためには、「要素そのもの」を意識したり、「要素の働き」を捉えたり、「要素の働かせ方」を考えたりすることができるようになることが重要ではないかと考えた。

そして、次のような研究仮説を設定し、研究を進めることとした。

> 音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、要素の働きを感じ取ったり、要素の働かせ方を試行錯誤したりするための指導の工夫をすれば、思いや意図をもった表現ができるようになるだろう。

２　思いや意図をもった音楽表現のための３段階の学習過程

児童が、音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら、思いや意図をもって表現したり、音楽全体を味わって聴いたりできるようになるためには、学習活動における児童の思考過程を段階的に捉え、各段階において指導の手だてを工夫していくことが効果的である。本研究では、思いや意図をもった音楽表現のための学習過程を、①聴き取る、②感じ取る、③思考・判断する、の３段階に整理した。「聴き取る」とは、音楽を形づくっている要素を判別したり意識したりすること、「感じ取る」とは、音楽を形づくっている要素の働きについて感じ取り、楽曲の特質としてとらえること、「思考・判断する」とは、音楽を形づくっている要素の働かせ方を試行錯誤し、思いや意図をもつことである。



そして、各段階における具体的な手だてを、音楽を形づくっている要素そのものを意識さ

せるための「①要素を聴き取る」、要素の働きを捉えさせるための「②要素の働きを感じ取る」、要素の働かせ方を考えさせるための「③要素の働かせ方を思考・判断する」と設定した。

３　具体的な手だての二つの視点

児童が、音楽を形づくっている「要素そのもの」を意識したり、「要素の働き」を捉えたり、「要素の働かせ方」を考えたりできるようになるためには、思いや意図をもった音楽表現のための３段階の学習過程において取扱う音楽を形づくっている要素を、学習活動の中で、一貫して提示していくことが有効である。

また、児童が、自分の感じ方を深めたり、友達の感じ方のよさや違いを認め合ったりしながら、自分の音楽表現に生かせるようになるためには、意識したり考えたりしたことを、学習のまとめとして最後に発言したり記録するのではなく、その都度、発言し合ったりワークシートに記述したりできる言語活動を、意図的・計画的に取り入れることも有効である。

そして、そのための具体的な手だてを、「音楽を形づくっている要素の提示の工夫」と「言語活動の工夫」の二つの視点で捉え、互いに関連させながら、各段階で工夫していくことで、児童は思いや意図をもった表現をすることができるようになる。

４　思いや意図をもった表現をするための具体的な手だて

(1) 音楽を形づくっている要素の提示の工夫

音楽を形づくっている要素の提示では、「取り出す」「比較する」「例示する」「視覚化する」の４観点に沿って工夫することが効果的である。

音楽を形づくっている要素を「取り出す」とは、楽曲の一部分を取り出して聴いたり、分割して聴いたりすることで、注目させたい部分や、考えさせたい要素への意識付けができるようになる。特に、各学習段階の学習の始めに提示すると、学習する要素への意識を高めることができる。

音楽を形づくっている要素を「比較する」とは、二つの要素の働きの違いや段階的な変化を比較して聴いたり、全ての素材を提示して聴く時間を設定したりすることで、違いによるよさや感じ方の違いを意識させることができる。注目させたい要素を、比較対象として意図的に限定することで、要素の違いへの理解を深めることができる。そのため、「③要素の働かせ方を思考・判断する」学習段階まで学習が進むと、意図的な提示がなくても学習を進めることができるので、「比較する」観点による手だての工夫は、特に必要としない場合が多くなる。

音楽を形づくっている要素を「例示する」とは、工夫する方法を例示したり、考え方を例示したりすることで、思考の幅が広がり、見通しをもって学習に取り組むことができる。特に、音楽を形づくっている要素と最初に出会う「①要素を聴き取る」段階と、見通しをもって活動を進める「③要素の働かせ方を思考・判断する」段階で提示すると有効である。

音楽を形づくっている要素を「視覚化する」とは、楽譜そのものを提示したり、楽譜の書き込みを提示したりすることで、要素の働きを具体物として視覚的に提示することができる。

教師が視覚的に提示することで、楽譜への書込み方を工夫したり、視覚的な情報のよさを感じて、自分の思いや意図を記録したりすることができるようになる。そのため、「①要素の働きを聴き取る」段階と、「③要素の働かせ方を思考・判断する」段階で提示すると有効である。

＜検証授業の記録より＞

工夫の観点	①要素を聴き取る	②要素の働きを感じ取る	③要素の働かせ方を思考・判断する
取り出す	音の重なりが変わる部分だけを取り出し、響きの違いを聴き合う。→P. 6	全ての声部が同時に鳴り響く部分を取り上げ、その音だけを同時に演奏する→P. 9 速度や音の重なりに注目できるように、反復する部分ごとに曲を分割して聴く。→P. 13	曲想を強く感じ取った部分に印を付ける。→P. 13
比較する	響きの変化を聴き取ることができるように、３回反復演奏する。→P. 12	各声部の役割を感じ取れるように、４つの声部から一つずつ旋律を抜いた演奏を聴く。→P. 8	
例示する	主題の反復に気付くように、主題の主な旋律を口ずさむ。→P. 12	素材の組み合わせを変えた時の、音色の違いを例示する。	様々な大きさの素材を選択することや、中身の量を調節することで、音色の違いを例示する。→P. 10
視覚化する	楽譜に縦の重なりと旋律の動きを記入しながら提示する。→P. 6	旋律と旋律の関わり方を視覚的に捉えられるように、楽譜に色分けして提示する。→P. 9	

(2) 言語活動の工夫

言語活動の工夫では、「発言する」「記述する」「意見交換する」の３観点に沿って工夫することが効果的である。

「発言する」とは、全体の場面で発言したり、教師に個別に話したりすることで、他の考え方を知ったり、現在の自分の考えを確認したりできる。特に意識をもたせたり確認させたりしたい場面を意図的に設定できるとともに、教師が個別に対応することで、児童一人一人の考えや思いを引き出すことができる。

「記述する」とは、ワークシートや楽譜に記述することで、記録を基に予想したり、思考の変容を感じ取らせたりすることができる。自分の考えを整理したり、思考の過程を記録したりすることで、予想しながら試したり、見通しをもって学習を進めることができる。

「意見交換する」とは、友達同士で話し合ったり、グループで意見交換したりすることで、互いの考えや思いの違いに気付いたり、楽曲への思いや意図をより明確にもって次の活動につなげることができる。

＜検証授業の記録から＞

工夫の観点	①要素を聴き取る	②要素の働きを感じ取る	③要素の働かせ方を思考・判断する
発言する	素材そのものの音を聴いて音色について気付いたことを言葉で表す。	各旋律の役割について感じたことを自分の言葉で表現する。→P. 8	いろいろ試していたときに、同じ組み合わせでもどのようなことをしたら音色が変わったのかを考え、発言する。→P. 10
記述する		反復と速度や音の重なりのかかわり合いを根拠に、感じ取った曲想をまとめる。→P. 13	工夫したことと、その結果、その音が気に入った理由を書く。→P. 11 「どうしてそう感じたのか」を記入する。→P. 13
意見交換する	意見交換しながら、各声部の役割について考える。→P. 8	音の重なりに着目してグループで友達の声を聴き合い、意見を交換する。→P. 7	反復ごとに聴き、速度や音の重なりの変化を記入したことについて、意見交換する。→P. 13

【実践事例Ⅰ】　Ａ表現(1)歌唱　第４学年

1　題材名　「音の重なりを感じ取りながら、声を合わせて歌おう」

2　題材の目標　互いの歌声や副次的な旋律を聴き、音の重なりを感じ取りながら、声を合わせて歌う。

〔共通事項〕旋律、音の重なり

教材名　「まきばのこうし」（小林純一作詞　川口晃作曲）

3　題材の評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能
互いの声や、副次的な旋律に関心をもち、音の重なりを感じ取りながら、声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。	互いの歌声、主な旋律や副次的な旋律を聴き、音の重なりが生み出すよさを感じ取りながら、声を合わせて歌う表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	互いの声や副次的な旋律、伴奏を聴き、音の重なりを感じ取りながら、自分の声を合わせて歌っている。

児童の変容

音の重なりが変わる部分だけを取り出して響きの違いを聴き合ったり、楽譜の音の重なりを視覚的にとらえながら聴いたりしたことによって、旋律の動きだけではなく、音の重なりとして変化する部分の２つの音を聴き取ることができるようになった。

そして、音の重なりに着目して意見交換したことにより、友達の意見も参考にしながら、音の重なりを曲想に結びつけて考えることができるようになった。

その結果、聴き取ったことを基に、音の重なりが変化する部分を意識し、声を聴き合いながら、このような響きで合わせて歌いたいという思いを明確にもち、互いの声を合わせて歌うことができるようになった。

4　学習　（　　）**音楽を形づくっている要素を聴き取るための具体的な手だて**

○学習内容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫◆言語活動の工夫 □具体の評価規準（評価方法）
音の重なりを手掛かりにして友達の声を聴き合いながら、別の旋律を合わせて歌おう。	
○音の重なりが変化するところを聴き取る。 ・音の重なりを取り出し、歌って聴き合う。 ①ＥとＣ　②ＧとＢ　③ＦとＡ→♯ＦとＡ ・音の重なりを聴き合いながら、４段目を合わせて歌う。 ○音の重なりに着目して、グループで友達の声を聴き合うための工夫をする。 	◇旋律や音の重なりを聴き取りながら、視覚的にも感じ取ることができるように、楽譜に縦の重なりと旋律の動きを記入しながら提示する《視覚化する》。 ◇別の旋律を合わせて歌うことができるように、音の重なりが変わる部分を取り出して、響きを感じ取り、旋律の動きを理解して歌う《取り出す》。 ◆音の重なりを手掛かりにしながら考えることができるように、どの部分に着目して聴き合うとよいか、話し合いながら楽譜に記入する《記述する》。

学習　容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫　言語活動の工夫 具体の　（　方法）
・どの部分に着目して聴き合うとよいか、話し合って楽譜に記入する。《記述する》 「主な旋律は変わらないけれど、副次的な旋律だけ音が変わっている場所があります。ここは、とても大事だと思います。」 「音の重なりの変わる部分をしっかり聴くことが大切だと思います。」	◇グループ内で交代に２つの旋律を合わせて歌い、聴く人は楽譜に記入した部分の音の重なりを比較しながら聴く《比較する》。 ◆互いの声を合わせて歌うことができるように、友達の声を聴き合いながら、音の重なりに着目してグループ内で意見交換する《意見交換する》。 ◆全体の場面で考えを共有できるように、試してみてうまくいったことなどをワークシートに記録する《記述する》。
	□イ音の重なりが変化する部分に着目して聴きながら、友達の声と合わせて歌うための表現を工夫している。 （発言・授業観察）
○友達の演奏をよく聴き合い、音の重なりに着目して声を合わせて歌えているか、振り返ったり認め合ったりする。 ・友達の声や、副次的な旋律を聴き取りながら歌えるように、２つの旋律が２列で向かい合って歌う。 ・４段目の旋律の重なりを聴き合いながら、全員で合わせて歌う。	◆グループごとに工夫したところを発言してから歌って聴き合い、感想やアドバイスを交換する《意見交換する》。 ◆音の重なりに着目して声を合わせるよさを共有できるように、友達の声や他の旋律を聴き合って歌うよさについて感じたことを発言する《発言する》。

【実践事例Ⅱ】　Ａ表現(2)器楽　第６学年

1　題材名「各声部の役割を生かして演奏しよう」

2　題材の目標　各声部の役割を理解し、表現の仕方を工夫して演奏する。

〔共通事項〕音色、旋律、音の重なり

教材名　「ラバースコンチェルト」（デニーランデル・サンデーリンザー作曲　石桁冬樹編曲）

3　題材の評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能
各声部の役割に関心をもち、友達と音を合わせて演奏することに主体的に取り組もうとしている。	各声部の役割を感じ取り、音色や音の重なり方について考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	各声部の役割を生かした表現で演奏している。

児童の変容

４つの声部（①～④）から一つずつ旋律を抜いた演奏を聴くことで、各声部の役割を音で感じ取り、役割を理解することができた。また、友達の意見を試行錯誤する手掛かりにしながら、楽器の組み合わせや音色を工夫することができた。その結果、各声部の役割を意識しながら、互いの音を合わせて演奏することができた。

4　学習　（　　）**音楽を形づくっている要素を感じ取るための具体的な手だて**

○学習内容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫◆言語活動の工夫 □具体の評価規準（評価方法）
○「ラバースコンチェルト」の各声部の役割を感じ取る。 ・４つの旋律が重なった音（基本の演奏）を聴く。 ・旋律を一つだけ抜いた演奏を聴き、基本の演奏と比べてどんな感じがしたか、思ったことや感じ取ったことを書き、発表する。 ・聴いて感じ取ったことや、各声部の役割について気付いたことをワークシートに書く。《記述する》 ・意見交換しながら、各声部の役割について考える。《意見交換する》	◇各声部の役割を感じ取ることができるように、４つの声部から一つずつ旋律を抜いた演奏を聴く《比較する》。 ◆考えを共有したり別の考え方に気付いたりして考え方を広げることができるように、各旋律の役割について感じたことを自分の言葉で表現する《発言する》。 □イ旋律を聴いたり演奏したりして役割を感じ取り、理解している。 （ワークシート・発言）

「①は曲の中心となる旋律だと思います。」
「②の旋律が入ると、①の音と響き合って、曲全体が明るくなるような感じがします。」
「③の和音やのばす音が入ると、曲全体の響きが豊かになると思います。」
「④は、ほかの旋律と比べて、音が低く、①から③を支えていると思います。」

学習　　（　　２）**音楽を形づくっている要素の働かせ方を思考・判断するための具体的な手だて**

○学習内容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫◆言語活動の工夫 □具体の評価規準（評価方法）
○各声部の役割を生かした演奏になるように表現の工夫をする。 ・全ての声部が同時に鳴り響く部分を取り上げ、その音だけを同時に演奏して音が重なり合う響きの美しさを感じ取り、演奏に生かせるようにする。	◇音が重なり合うことによって生まれる響きのよさや美しさを感じ取ることができるように、全ての声部が同時に鳴り響く部分を取り上げ、その音だけを同時に演奏する。《取り出す》
・旋律と旋律の関わり方をとらえ、音の重なり方や関わり方の変化を感じ取って演奏できるようにする。	◇旋律と旋律の関わり方を視覚的に捉えることができるように、三度の順次進行や二分音符と装飾的な旋律の重なりの部分を取り出して、楽譜に色分けして提示する。《視覚化する》
・グループごとに演奏をし、役割を生かした演奏になっているか意見交流をする。 ・演奏を振り返り、友達の意見を参考にしながら、楽器の音色を変えたり奏法を工夫したりする。 ・各声部の役割を生かせるような演奏になっているかグループ同士で聴き合い、意見交換をして、楽器や奏法を変えるなどいろいろ試しながら表現の工夫をする。《意見交換する》	◆試行錯誤する手掛かりにすることができるように、グループで音を合わせ始めた段階から互いの演奏を適宜聴き合い、各声部の役割に着目して意見を出し合う。《意見交換する》 □イ各声部の役割を生かすにはどの楽器を選んだらよいか、旋律同士がきれいに重なるためにはどのように演奏したらよいかを考え、表現の仕方を工夫している。（ワークシート・発言）

「①はリコーダーだけだと、音があまり聴こえません。」
「次に、アコーディオンも組み合わせてみたらどうですか。」
「②の鉄きんの音は少し控えめにすると、①の旋律がよく聴こえるようになるかもしれません。」
「③は、もっと音が長くのばせる楽器がいいと思います。」
「では、いろいろ合わせながら試してみましょう。」
「④のバスマスターは、付点のはずむようなリズムも大切にすると、明るい感じになっていいと思います。」

【実践事例Ⅲ】　Ａ表現(3)音楽づくり　第２学年

1　題材名「気に入った音を見つけよう」

2　題材の目標　素材の組み合わせや、素材の大きさ、中身の量によって、音色の違いがあることに気付き、気に入った音を見付けて表現する。

〔共通事項〕音色

3　題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
様々な素材の組み合わせや素材としての音に関心をもち、２種類の組合せから様々な音色を見付けようとしている。	自分の気に入った音色を見つけるために、素材の組合せや素材の大きさ、中身の量の違いによる音色のよさを感じ取り、どのように音色をつくるかについての思いをもっている。	素材の組合せや大きさの選択、中身の量を工夫して、自分の気に入った音色を見付け、表現している。

児童の変容

素材そのものの音色を聴くことで、大きさによって音色が違うこと、同じ貝殻でも種類によって音色が違うことに気付くことができた。

そして、どんな感じの音だったのかを言葉で表現して明確にすることで、見通しをもって素材選択をしたり、気に入った素材の音色を生かす組合せを探したり、予想しながら２種類の組合せを試すことができた。

また、組合せを考えるだけではなく、素材の大きさを選択したり、中身の量を調節したりしながら、全員が自分の気に入った音を見付けることができた。自分の気に入った音を、理由をもって見付けて表現していたことが、思いや意図をもった表現となっていた。

4　学習　（　　）**音楽を形づくっている要素の働かせ方を思考・判断するための具体的な手だて**

○学習内容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫◆言語活動の工夫 □具体の評価規準（評価方法）
自分の気に入った音をみつけよう。	
○工夫するポイントを考える。 ・いろいろ試していたときに、同じ組合せでもどんなことをしたら音色が変わったのかを考え、発言する。《発言する》	◆素材の大きさや中身の量の工夫もしながら、２種類の組合せ方を考えていけるように、「同じ組合せでも何を変えると音色が変わるのか」を発言する。《発言する》
「ペットボトルの大きさを、大きいのと小さいので試したら、音が違っていました。」 「たたく場所を変えると、音が違っていました。」 「中に入れる豆の数が違うと、音が違っていました。」 	
・素材の大きさによる音色の違いと、中身の量による音色の違いを実際に聴く。	◇２種類の組合せ方を考えていけるポイントを意識することができるように、様々な大きさの素材を選択することや、中身の量を調節することを例示する。《例示する》

・音の感じがどのように違っていたのかを発言する。《発言する》

「大きいのは音が低くて、小さいのは音が高くなっていました。」

・友達の紹介を参考にしながら、気に入った音を見付けるための組み合わせ方について見通しをもつ。《発言する》

「どうして、貝がらと〇〇ばかりを試していたのですか。」
「貝がらの音がよかったから、貝がらの音がよく聴こえる組み合わせを考えて試しました。」

・その音のどこが気に入ったのかを常に考えながら、気に入った音を絞っていく。

・何をどのように工夫したのか、その結果どの音に決めたのか、どうしてその音が気に入った音なのかをワークシートに書く。《記述する》

◆工夫するポイントとして意識することができるように、聴いて感じ取った音色の違いを発言することにより、素材の大きさや中身の量によって音色が違うことを明確にする。《発言する》

◇気に入った音の絞り方に生かすことができるように、自分の気に入った素材の音を生かすような組み合わせを試していた児童や、組み合わせたときの意外な変化を見付けていた児童が前回やっていたことを紹介する。《例示する》

□ア音色の違いに気を付けながら、素材の組み合わせを考えたり、素材の大きさを選択したり、中身の量を調節したりしている。　（授業時の様子・ワークシート）

◆音色に対して、自分の思いや意図をもって気に入った音を絞り込むことができるように、面白い音、いい音、と感じた理由を考える場面をつくる。《発言する》

「どうして、いい音だと思ったのですか。」
「小さい缶に、ビーズをこれぐらい入れた時に、キラキラした音になったからです。」

1　どんなくふうをしましたか？◎でかこみましょう。

そのほかのくふうをした人は、どんなくふうか書きましょう。

大きさをえらんだ　　なかみのりょうをくふうした　　ならし方をくふうした

そのほかにくふうした　どんなくふうですか？

2　気に入った音はどんな感じの音がしますか

自分の考えを整理して書くことで、気に入った理由を友達に伝えることができる。

3　どのように音を出すかくわしく書きましょう。

れい：大きなかんの中に、貝がら（白いのだけ１５こ）を入れて、ふたをしないで、たてにふります。

【実践事例Ⅳ】　Ｂ鑑賞(1)鑑賞　第６学年

1　題材名「曲想を感じ取ろう」

2　題材の目標　主題の反復と速度や音の重なりの関わり合いを手掛かりに、曲想の広がりや音の厚みを感じ取りながら聴く。

〔共通事項〕速度、音の重なり、反復

教材名　管弦楽組曲「惑星」から「木星」（ホルスト作曲）

3　題材の評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	エ　鑑賞の能力
反復と、速度や音の重なりの関わり合いに関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	反復と速度や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、楽曲の構造を理解して聴いている。

児童の変容

反復する部分ごとの速度や音の重なりの変化を感じ取り、音楽を形づくっている要素と曲想を結びつけて考えることができるようになったため、楽曲の構造を理解しながら味わって聴くことができた。

4　学習展開（抜粋）音楽を形づくっている要素を聴き取るための具体的な手だて

○学習内容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫◆言語活動の工夫 □具体の評価規準（評価方法）
○反復と音の重なりとの関わり合いを感じ取る。 ・「メリーさんの羊」をリコーダーで演奏する。 「同じ楽器の音が重なっていったら、だんだん大きくなりました。」	◇響きの変化を聴き取ることができるように、「メリーさんの羊」を３回反復演奏させながら、２回目、３回目は順次リコーダーの本数を加えていく。《比較する》
・「メリーさんの羊」をリコーダー、低音楽器、打楽器で演奏する。	◇響きの変化を聴き取ることができるように、２回目は低音楽器、３回目はリズムを加え、「メリーさんの羊」を３回反復演奏させる。《比較する》
「２回目はリコーダーの高い音に低い音が重なったので、バランスがよくなって落ち着いた感じになりました。」 「同じ旋律なのに、音の重なり方で曲の感じがちがいました。」 「３回目はリズムが入ったので、落ち着いた感じから動きたくなる感じに変わりました。」	
○Ｂの部分から、反復と音の重なりを聴き取る。 ・Ｂの主題を口ずさむ。 ・主題が反復したところで挙手をする。	◇主題が反復していることに気付くことができるように、主題の主な旋律を口ずさみ親しむようにする。《例示する》 ◇反復を意識することができるように、反復したところで挙手をしながら確認する。《取り出す》

学習　　（　　）**音楽を形づくっている要素の働かせ方を思考・判断するための具体的な手だて**

○学習内容　・学習活動（・言語活動）	◇要素の提示の工夫◆言語活動の工夫 □具体の評価規準（評価方法）
○第３主題の反復と速度や音の重なりを感じ取る。 ・第３主題を反復ごとに聴き、速度や音の重なりの変化をワークシートに記入し、意見交換をする。《記入する》 「速度が速くなってきました。」 「低い音が重なってきました。」 「タンブリンの音が重なりました。」 ○反復と速度や音の重なりの働かせ方について考える。 ・曲想を強く感じた部分に●印を付ける。《記入する》 ・反復と速度や音の重なりの関わり合いを根拠に、感じ取った曲想をワークシートにまとめる。《記入する》	◇反復ごとの速度や音の重なりの変化を感じとることができるように、曲を分割して聴く。《取り出す》 ◆速度と音の重なりの変化を手掛かりに曲想を感じ取ることができるように、反復ごとの変化をワークシートに記入する。《記述する》 ◆自分の感じ方を深めることができるように、感じ取ったことについて発言する。《発言する》 ◇楽曲から感じ取った曲想の根拠に気付き、反復と速度や音の重なりの関わり合いを意識しながら考えることができるように、曲想を強く感じ取った部分に●印を付ける。《取り出す》 ◆感じ取った曲想の根拠が、反復と速度や音の重なりの関わり合いにあることを意識するために、ワークシートに「どうしてそう感じたのか」を記入する。《記述する》 □エ主題の反復と速度や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、反復と速度や音の重なりの関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。（ワークシート）

「木星」　作曲　ホルスト

6年　　組（　　）

Ⅰ　どんな感じの曲でしたか？

（初めて聴いた感想）がけっぷちに立たされているような感じの曲

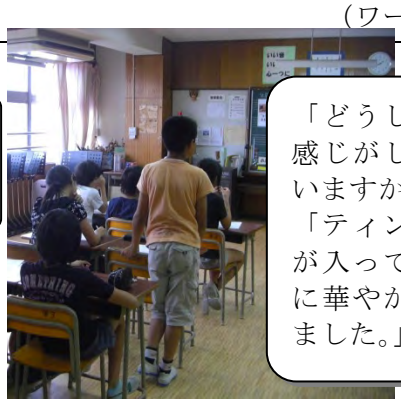
Ⅱ　課題　≪

主題					
反復	1		3	4	5
音の重なり					
速度					

曲想を強く感じ取った部分に印をつけたことで、曲想と音楽を形づくっている要素を結びつけて考えることができる。

主題の流れの中で、この曲の印象（Ⅰ）を強く感じたところに●印をつけましょう。

Ⅲ　この曲を聴いて感じた印象（Ⅰ）を、“どうして、そう感じたのか”（Ⅱを参考に）理由を入れて書きましょう。



「どうして華やかな感じがしたのだと思いますか」
「ティンパニの演奏が入ってきたら、急に華やかな感じがしました。」

（学習後の感想）楽器の音が一番多く重なっていることと、速度が一番速くなっているところから、木星がどんどん迫ってくるように感じて、がけっぷちに立たされているような感じがしました。

【各学年の指導事項の連続性や関連性を考慮した年間指導計画】

思いや意図をもった音楽表現を、次の題材で生かしたり、学習した〔共通事項〕を生かしながら、次の学習に取り組めるようにしたりするためには、学習指導要領に示された指導事項や、題材で取扱う〔共通事項〕の連続性や系統性が必要である。

そこで、以下の基本的な考え方を基に、各学年における年間指導計画を作成した。

1　指導事項の配列の基本的考え方

(1)　A表現(1)歌唱(2)器楽

聴(視)唱や聴(視)奏の力を基盤としながら（指導事項ア)、感じ取ったことを基に工夫し思いや意図をもって表現する力が（指導事項イ)、表現に対する思いや意図を音楽表現として表出することにつながり（指導事項ウ)、自らの表現のよさを判断しながら声や音を合わせて歌ったり演奏したりできるようになることが大切である（基本的な配列　ア→イ→ウ→エ)。

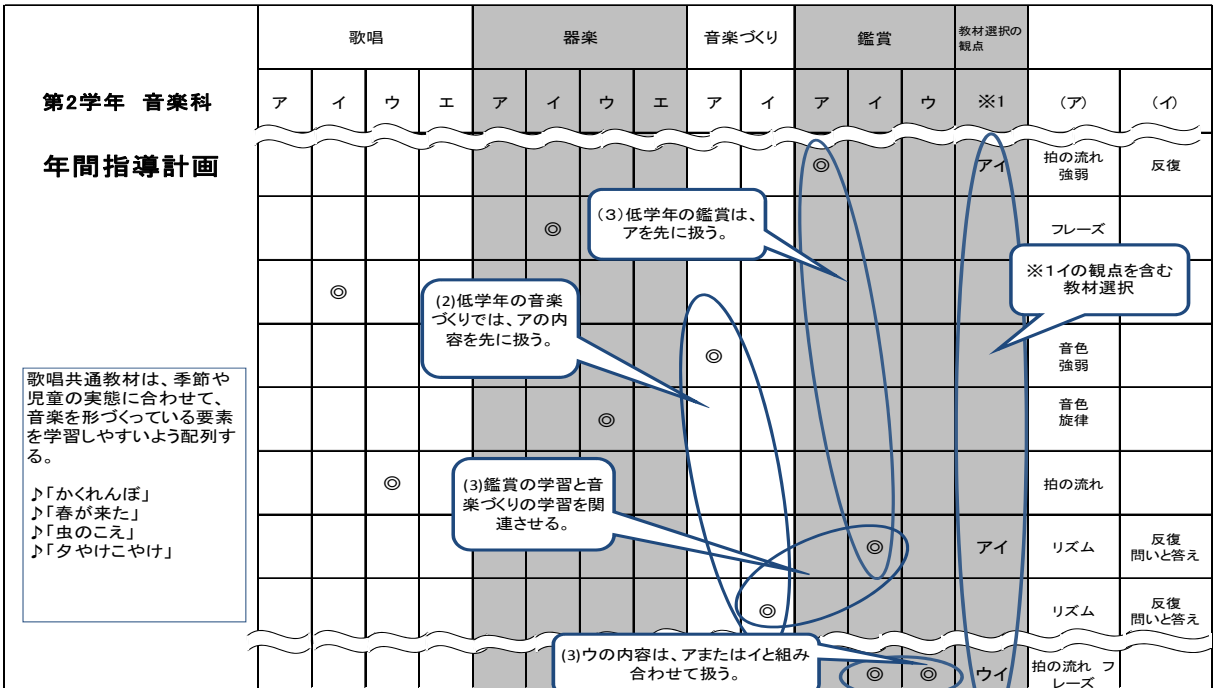
(2)　A表現(3)音楽づくり

低学年の学習では、音の様々な特徴への気付きを生かして（指導事項ア)、音を音楽に構成することができるようになる（指導事項イ）ことが大切である。また、中学年及び高学年では、音楽の仕組を生かし、思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくる（指導事項イ）経験を生かし、つくる喜びを味わいながら即興的に表現する（指導事項ア）力を育成することができる（基本的な配列　低学年ア→イ、中・高学年イ→ア)。

(3)　B鑑賞(1)鑑賞

低学年の学習では、聴くことに対して十分に親しみをもち（指導事項ア)、楽曲の構造を理解して聴く力を育成する（指導事項イ）ことが大切である。また、中学年及び高学年では、楽曲の構造を理解して聴く経験をふまえ（指導事項イ)、楽曲の特徴を手掛かりに全体を見通して聴く力を育成する（指導事項ア）ことができる（基本的な配列　低学年ア→イ、中・高学年イ→ア)。さらに、指導事項ウは、指導事項アや指導事項イと組み合わせ、鑑賞で扱う音楽の仕組は、音楽づくりで扱う音楽の仕組と関連付けるようにする。

2　年間指導計画例



第4学年　音楽科

年間指導計画

歌唱共通教材は、季節や児童の実態に合わせて、音楽を形づくっている要素を学習しやすいよう配列する。

♪「さくらさくら」
♪「とんび」
♪「まきばの朝」
♪「もみじ」

A表現										B鑑賞				共通事項	
歌唱				器楽				音楽づくり		鑑賞			教材選択の観点		
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	※1	（ア）	（イ）
											◎	◎	イウ	強弱 速度	変化
									◎					強弱 速度	変化
	◎													旋律 フレーズ	
					◎										
										◎		◎	アイ	音階や調	反復 問いと答え
								◎						音階や調	反復 問いと答え
						◎								音の重なり	
		◎												音の重なり	
											◎	◎	イウ	旋律	変化

(3)ウの内容は、アまたはイと組み合わせて扱う。

中学年から加わる音楽の仕組み

(3)鑑賞の学習と音楽づくりの学習を関連させる。

中学年から加わる音楽の要素

(2)音楽づくりでは、イの内容を先に扱う。

(3)中学年の鑑賞は、イの内容を先に扱う。

※1イの観点を含む教材選択

第6学年 音楽科　年間指導計画

歌唱共通教材は、季節や児童の実態に合わせて、音楽を形づくっている要素と関連させて学習できるようにする。

♪ 「おぼろ月夜」
♪ 「われは海の子」
♪ 「ふるさと」
♪ 「越天楽今様」

A表現										B鑑賞				共通事項	
歌唱				器楽				音楽づくり					教材選択の観点		
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ	※1	（ア）	（イ）
◎														の流れや フレーズ	
				◎										拍の流れや フレーズ	
											◎	◎	イウ	音色 音の重なり	変化
									◎					音色 音の重なり	変化
	◎													音階や調	
					◎									強弱 音色	
		◎												旋律	
										◎		◎	アイ	旋律	反復 問いと答え
								◎						旋律	反復 問いと答え
						◎								リズム 速度	
			◎											音の重なり や和声の響き	
											◎	◎	イウ	旋律	音楽の縦と横の関係
							◎							音の重なり や和声の響き	音楽の縦と横の関係

(3)ウの内容は、アまたはイと組み合わせて扱う。

(3)鑑賞の学習と音楽づくりの学習を関連させる。

(2)音楽づくりでは、イの内容を先に扱う。

（1）歌唱・器楽はア→イ→ウ→エの順に扱う。

※1イの観点を含む教材選択

※1　鑑賞教材選択の観点　　どの鑑賞教材についても、指導のねらいに即したイの観点を含むことが望ましい。

ア　我が国及び諸外国のわらべうたや遊び歌、行進曲や踊りの音楽など身体表現の快さを感じ取りやすい音楽、日常の生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲

イ　音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲

ウ　楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲

Ⅳ　研究のまとめと今後の課題

１　研究のまとめ

本研究では、研究主題を「感じ取ったことを基に、思いや意図をもった表現ができる児童の育成」とし、検証授業による実践研究を進め、次のような成果を得ることができた。

(1) 思いや意図をもった音楽表現をするための３段階の学習過程

児童が、音楽を形づくっている要素を手掛かりにしながら、思いや意図をもって表現したり、音楽全体を味わって聴いたりできるようになるためには、学習活動における児童の思考過程を段階的に捉え、各段階において指導の手だてを工夫していくことが効果的である。

本研究では、思いや意図をもった音楽表現のための学習過程を、①聴き取る、②感じ取る、③思考・判断する、の３段階に整理し、各段階における具体的な手だてを、「①要素を聴き取る」、「②要素の働きを感じ取る」、「③要素の働かせ方を思考・判断する」と分類した。

(2) 具体的な手だての二つの視点

思いや意図をもった音楽表現ができるようになるためには、３段階の学習過程を通して、取扱う音楽を形づくっている要素を一貫して提示することが重要である。そのためには、「音楽を形づくっている要素の提示の工夫」を「取り出す」「比較する」「例示する」「視覚化する」の４観点に沿って工夫していくことが有効である。

また、児童が、意識したり考えたりしたことを、その都度、発言し合ったりワークシートに記述したりできる活動を、意図的・計画的に取り入れていくことが重要である。そのためには、「言語活動の工夫」を「発言する」「記述する」「意見交換する」の３観点に沿って工夫していくことが有効である。

さらに、この二つの視点による工夫は、各段階において、互いに関連させていくことが重要である。

(3) 指導事項の連続性や関連性を考慮した年間指導計画

新学習指導要領では、内容構成が改善され、これまでのように表現及び鑑賞の２領域で構成しつつ、表現領域は、歌唱、器楽、音楽づくりの３分野ごとに示され、〔共通事項〕が新設された。児童が、思いや意図をもった音楽表現を、次の題材で生かしたり、学習した〔共通事項〕を生かしながら、次の学習に取り組めるようにしたりするためには、学習指導要領に示された指導事項や、取扱う〔共通事項〕の連続性や系統性が必要である。

また、限られた時数の中で、基礎的な表現及び鑑賞の能力を確実に身に付けるために、年間の指導内容を関連付け、既習内容を効果的に活用できる連続性のある指導計画を作成した。

２　今後の課題

思いや意図をもった表現ができるようにするための手掛かりとなる、音楽を形づくっている要素を適切に扱うために、さらに教材研究、教材解釈を深めていく。

そして、思いや意図をもった音楽表現のための３段階の学習過程における、「音楽を形づくっている要素の提示の工夫」の「取り出す」「比較する」「例示する」「視覚化する」の４観点と、「言語活動の工夫」の「発言する」「記述する」「意見交換する」の３観点による指導内容の検証を重ね、さらなる指導方法の改善につなげていく。

また、音楽表現を高めるための言語活動の適切な取り入れ方や、思考・判断するために必要な学習過程に沿った、思考過程を表すことができるワークシートをさらに工夫していく。

平成２２年度　教育研究員名簿

小　学　校　・　音　　楽

地区	学　校　名	職名	氏名
杉 並 区	杉 並 第 一 小 学 校	主任教諭	臼 井　　朝 香
杉 並 区	高 井 戸 第 四 小 学 校	主任教諭	後藤　亜紀子
北　　区	な で し こ 小 学 校	主任教諭	福 田　　真 理
三 鷹 市	第　六　小　学　校	主任教諭	篠 澤　　章 子
国分寺市	第　八　小　学　校	主任教諭	◎立 花　　ゆ り

◎　世話人

〔担当〕　東京都教職員研修センター研修部教育経営課指導主事　玉野　麻衣

平成22年度
教育研究員研究報告書

小学校　音　楽

東京都教育委員会印刷物登録

（平成２３年度第４６号
平成２３年　６月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８３６
印 刷 会 社　有限会社　シーダー企画
住　　所　東京都新宿区西五軒町７－１０
電話番号　（０３）５２２８－３４５１